



「奇跡の一本松」[提供:道の駅高田松原]

特集

東北森林管理局における樹木採取権制度の取組について

[資源活用課]

CONTENTS

■美しい森林づくり

広大な国有林を利用した森林学習・施業実習 ..... [秋田森林管理署]

■我が署の名所

道の駅高田松原と奇跡の一本松 ..... [三陸中部森林管理署管内]

## 特集



# 東北森林管理局における 樹木採取権制度の取組について

資源活用課

## 1 樹木採取権制度導入の 背景

現在、国内の森林は戦後や高度経済成長期に植栽されたスギやヒノキなどの人工林が大きく育ち、木材として利用可能な時期を迎えようとしています。一方で森林の所有は小規模・分散的で、長期的な林業の低迷や森林所有者の世代交代等により、森林所有者の森林への関心は薄れ、森林が適切に経営管理されていないという事態が起きております。こうした状況が続けば、災害防止や地球温暖化防止等森林の公益的機能の維持増進にも支障が生じてしまいます。加えて、所有者不明や境界不明確等の課題もあり、森林の管理に非

常に多くの労力が必要になって  
います。

このような中、適切な経営管理が行われていない森林の経営管理を、林業経営者に集積・集約するとともに、それができない森林の経営管理を市町村が行うことで、森林の経営管理を確保し、林業の成長産業化と森林の適切な管理の両立を図ることを目的として、平成31年4月1日に森林経営管理法が施行され、経営管理が不十分な私有林を都道府県が公表する民間事業者に集積・集約する森林経営管理制度がスタートしました。

この制度の要となる林業経営者を育成するためには、安定的な事業量の確保が必要となりま

す。そこで国有林が、私有林を補完する形で、長期・安定的にこうした民間事業者に木材を供給するために、今後供給量の増加が見込まれる国有林材の一部について、現行の入札に加え、一定の区域（樹木採取区）において、一定期間・安定的に樹木を採取できる樹木採取権制度が創設されました。

## 2 樹木採取権制度とは

これまで国有林が事業者に木材を供給してきた現行の立木販売の入札による方法は、毎年度個別に場所、時期等を特定し、入札により立木を購入して伐採する事業者を決定する方法であったため、事業者は事業量の

確保の見通しが立てにくい状況  
にありました。

これに対し、樹木採取権制度においては、国有林の一定の区域を樹木採取区とし、この区域において立木を一定期間、安定的に伐採できる樹木採取権を設定するものになります。この樹木採取区の面積は、地域の林業経営体が対応可能な200〜300haとし、年間の素材生産量は4千m程度を想定し、権利の期間は10年を基本に運用するものとしています。これにより、事業者は長期に事業量の見通しがつくことで、機械導入や雇用等を行いやすくなる効果が期待されます。樹木採取権制度とは、このように安定した仕事を事業

者に提供することで、林業経営者を育成することを目的としております。

### 3 東北森林管理局における 樹木採取権制度の取組

樹木採取権制度は、当初は令和2年度から設定に向けた取組が始まる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う経済の混乱等の影響を受けて1年延期となり、今年度から全国10か所で、樹木採取権の設定に向けた手続が今現在進められております。

東北森林管理局では、青森県と秋田県でそれぞれ1か所ずつ、合計2か所で樹木採取区の候補地を選定し、樹木採取区の指定の公告の縦覧と、事業者向け説明会をそれぞれ実施した上で、令和3年9月6日付けで樹木採取区として指定されました。現在は樹木採取権の設定を受けることを希望する者を公募しております。公募においても事業者

向け説明会を実施することとし、秋田県で9月29日、青森県で10月21日・22日に開催しております。これら説明会は、全国でも東北局が最も早く開催しました。

公募の期限は12月～1月までとなっており、まだ樹木採取権の設定までは時間がかかりますが、樹木採取権の存続期間は樹木採取権の設定の日から8年となっており、樹木採取権の設定を受けることができれば、その事業体は長期間にわたり伐採する現場を確保することができるのです。

全国的にも初めての取組となりますが、東北局としても、林野庁との連絡を密にしながらいきまいると進めていきたいと思います。



事業者向け説明会の様子



事業者向け現地説明会の様子



樹木採取区現場（青森県）



樹木採取区現場（秋田県）



# 美しい森林づくり

## 広大な国有林を利用した 森林学習・施業実習

秋田森林管理署

当署は秋田県中部（秋田市、大仙市、仙北市、美郷町）国有林を管轄し、その面積は約11万haにも及びます。

北には八幡平、東に駒ヶ岳、南に真昼岳を配し、それぞれ十和田八幡平国立公園、真木真昼国立自然公園に指定されており、この他、大平山県立自然公園、田沢湖抱返り県立自然公園を有する自然豊かな森と秋田県内でも屈指のスギ人工林蓄積（約640万㎡）を誇り、年間5万㎡の丸太生産と約500haの森林育成を行う森林管理署です。

県庁所在地にある署でありながら広大な国有林を管轄しているという特色を生かし、豊かな自然の中での森林教室、豊富なフィールドを生かした研修・実習地等の提供を通じて

た森林・環境教育も重要な取組と捉えて力を入れて対応しています。そのよ  
うな事例の中からいくつかについて紹介してみたいと思います。



紅葉の田沢湖

### 【旭川小学校】

令和3年7月5日、秋田市太平洋山自然学習センター「まんたらめ」において、秋田市立旭川小学校

5年生児童78名に対して森林教室を実施しました。



旭川小学校からは「総合的な学習の時間」の一環として自然のすばらしさや森林の重要性について学習することを目的として講師派遣の協力依頼があり、秋田署としても積極的に関わりを持っていくこととし、署員総勢12名と技術普及課4名へ協力を要請して対応することとなりました。当日は①屋内で森林の働きなどを学習②身近にある木を想像した樹木の測定③伐採方法の学習と丸太の輪切り、の3つのメニューを3班に分かれ順番に体験してもらいました。



①森林の働きなどの学習

①の座席ではパワーポイント

ントを使い森林の働きや地球温暖化防止などについて



②身近な木の樹高測定

学び、②の樹木測定ではホオノキ、クリ、アカマツに測桿と輪尺をあて、樹高と胸高直径を測り、材積を計算しました。また、署員がオオスズメバチの標本を作り、持参したところ、子供たちの「食いつき」が良く目を輝かせて興味津々、瓶を覗いていました。③の丸太の輪切りでは自分たちでノコギリを使い直径10cm程度の丸太を切り、その後はやスリがけを黙々と行い、コースターとして持ち帰りました。



オオスズメバチの標本

当日はパラパラと雨が降ることもありましたが、楽しそうに各メニューをこなす生徒を見て、準備は大変ですが、「やって良かった」と思



③丸太の輪切り





# 美しい森林づくり

える森林教室となりました。学校からは貴重な学びの場となり、感謝の言葉や、子供たちからは心のこもった手紙をいただいています。引き続き、学校からの要請などに応えていきたいと考えております。

## ひとくちメモ

「まんたらめ」は、アイヌ語で「源流」という意味を持ちます。近くには近代化遺産として初めて重要文化財に指定された「藤倉水源地」があります。

## 【秋田県立林業大学校】

秋田県立林業大学校と秋田森林管理署の間では「林業の技術や知識を学び、林業の中心的な役割を担う人材の育成等の推進を図る」ことを目的として、「人材育成に関する協定」を令和3年3月11日に締結しました。今後は当署における造林・生産請負事業実行中の箇所やその跡地を研修フィールドとして広く提供することとしており、林業大学校生には森林整備や高性能林

業機械の操作等の実技を行っていただくこととしております。

今年度は林業大学校の研修計画に基づき、令和3年9月6日から延べ6日間にわたり、当署の皆伐跡地内において地拵（苗木を植付る前の枝条や灌木除去等の作業）を行うことになりました。実習では1年生18名が刈払機と下刈鎌を使った作業班に分かれ、地拵作業を行いました。当署としても、



刈払機と下刈鎌に分かれ作業中



林業大学校講師との作業開始前の打合せ

より実践的な実習になるよう通常の事業発注時において求める仕様や注意事項について直接指導する講師の方々と意思疎通を図るよう

努めました。

実習当日は先週までの曇空から天候が一変し、残暑がぶり返したこともあり、作業中に具合が悪くなる生徒もおりました。特に下刈鎌を使った作業では労働負荷が高く、先人たちの手工具しかなかった時代の厳しさを身をもって感じているようでした。また、そんな厳しさの中で黙々と作業する生徒にたくましさを感じました。



暑いな～\*

研修終了日には自分たちが地拵作業を完成させた約1haの区域を満足そうに眺めておりました。この若者たちが一人もかけることなく卒業し、郷土の森林を「生産（活用）」し「造林（育成）」する林業関連従事者になることを祈らずにはいられません。今後は、10月に植付実習を



行う予定となっておりませんが、来年度以降の箇所選定など、引き続き、フ

ルド提供等をはじめとして秋田県の次代を担う若き技術者の育成支援に微力ながら努めていきたいと考えております。このような取組を通じ、「自然に興味・関心を持つ」「自然の大切さを理解する」「小学生や「自然を育成・活用し生業とする」林業大学校生が現れてくれることを期待し、またその醸成を図るべく取組を続けてまいります。



植栽箇所をコンパスで測定中





## 青森森林管理署

### 青い森林業アカデミーの 研修生が国有林内で現地 見学を実施

令和3年7月21日（水）に「青い森林業アカデミー」の研修生8人が、ヒバの天然更新などの勉強のため、国有林内で現地見学を実施しました。



同管内回のパネルを囲む署長と研修生



ヒバの年輪を数える研修生



十二本ヤス

## 新任者略歴紹介

令和3年10月1日付け

局長



みやざわ しゅんすけ  
宮澤 俊輔  
(東京都)

昭和63.4 林野庁指導部計画課  
平成28.8 林野庁林政部  
木材産業課長  
平成30.1 中部森林管理局長  
令和元.10 (独法) 農林漁業  
信用基金理事

「青い森林業アカデミー」は、青森県内の林業の中核的担い手となる現場技術者を育成することを目的として、青森県が令和3年4月に開講した研修です。

はじめに当署署長が、東北森林管理局管内の自然や森林について、パネルを使用しながら、山のはたらきや国有林の取組について説明し、研修生たちはメモを取りながら、熱心に話を聞いていました。

署長の説明を聞いた後、青森市内にある眺望山自然休養林に移動し、管轄する森林官の案内で、ヒバの伏条更新や耐朽力などの性質について学びながら、頂上まで登りました。

研修生たちは、ヒバの年輪を数えたり、匂いを嗅いだりして、青森の郷土樹種であるヒバを深く感じながら散策していました。

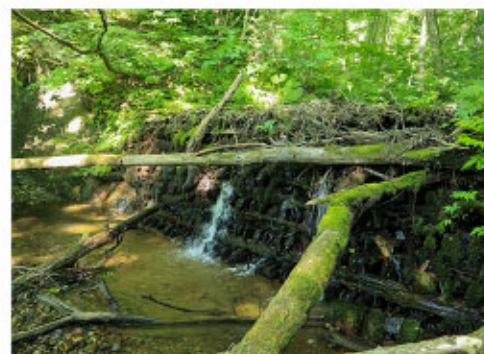
次に、津軽森林管理署金木支署の管内に移動し、「十二本ヤス」と呼ばれるヒバの巨樹を見学しました。樹高は約34m、樹齢は諸説ありますが800年以上といわれており、その大きさに圧倒されます。幹の途中で必ず12本になるという枝の不思議な話を聞き、研修生たちはヒバの周囲を何度も回って、本当に枝が12本なのかを数えて確かめていました。

最後に、同支署管内にある「坪毛沢ヒバ木製治山えん堤」を見学しました。見学した木製えん堤は昭和33年に施工されたもので、60年以上が経過していますが、今なお浸食を防

ぐ機能を発揮しています。研修生たちは青森ヒバの耐久性の高さに驚き、たくさん質問をしていました。

今回の現地見学を通して、青森ヒバの性質について理解を深め、研修生に今後の勉強や将来の仕事に生かしていただきたいと思います。

当署では、今後も引き続き林業の担い手育成のため支援してまいります。



ヒバの木製えん堤

# 過酷な環境で 強く生きるクロマツ

津軽森林管理署金木支署 奈良 真吾

日本海に面した地域では、西からの海風や冬の季節風が強く、飛ばされた海岸砂丘の砂が、民家や田畑に大きな被害を与えてきました。そのため、各地で飛砂を防止するために、潮風に強く、養分や水分が少ない砂地でも生長できるクロマツが海岸砂丘に植えられてきました。クロマツ林を上空から見ると①、日本海と民家・田畑の間に広がっているのが分かります。そして、クロマツの葉は硬く先端が鋭い針のような形をしており②、飛砂が葉にぶつかっても傷つきにくく、葉の表面から水分が失われにくい形状になっています。

海から少し離れた場所では、樹高20m程に生長したクロマツ林③が、風下側に少し傾いて成長しています。海に近づくと、より風の影響を受けるため樹高は3m程、幹が屈曲し風下側へ大きく傾いています④。目の前に海が広がる場所にあるクロマツ林では、海風が直接あたり樹高は1m未満、地面を這うように風下側へ生長しています⑤。まるで、標高の高い山で強風を受けて生育するハイマツのようです。また、海岸の岩場では、へばり付くように根を張り生長するクロマツを見ること

ができます⑥。

いったいどうして、クロマツは他の樹木が生育できないような過酷な環境で生きていくことができるのでしょうか。それは、クロマツの根につくカビの一種である「菌根菌(きんこんきん)」の働きが関係しています。根の中に入り込んだ菌根菌は土の中に菌糸を伸ばし、養分や水分を吸収しクロマツに供給するのです。一方で、クロマツが光合成で作りに出した養分の一部を受け取って生きており、クロマツと菌根菌は共生関係にあります。このように、クロマツは様々な菌根菌の力を介して、養分や水分の少ない環境でも生育できるのです。

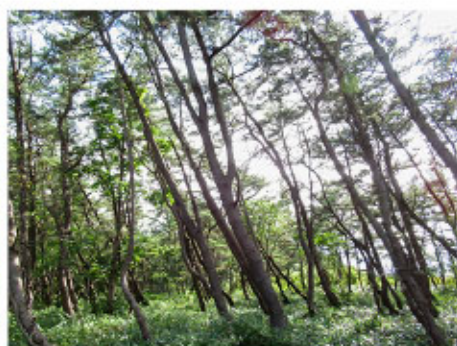
クロマツが生長しクロマツ林が成熟してくると、枯枝や枯葉等の有機物が蓄積し土壌が肥沃になります。すると、広葉樹が侵入し、クロマツに変わって生育環境を広げていくのです。クロマツにとっては、貧栄養な土壌のままのほうが、他樹種が侵入することができないので、都合が良いのです。



①日本海に面したクロマツ林



②クロマツの葉



③風下に傾くクロマツ林



④屈曲しながら生長



⑤最も海側に生きるクロマツ



⑥自然発生したクロマツ



# 持続可能な林業経営に向けて



秋田県秋田市 佐藤 智子  
 (一社) 日本産天然精油連絡協議会理事

り土が裁判に発展している現実を逡巡した。

私は縁あって平成21年に秋田県立大学木材高度加工研究所

昨年十和田で行われた現地見学会では、地中深く張り巡らされた集水井システムに驚かされた。通常目にはできない場所にパイプを埋め込み地滑りを防ぐという壮大な戦いをしてる関係者の努力には頭が下がる。担当官の説明の中で最も心に残った言葉は「地面は動くもの」ということ。普段都市部に住む身としては、分かっているはずでもそれは認識の奥底にしまわれている理解だ。

7月3日に伊豆地方で起きた土石流は上流に積まれた土砂が原因ではと言われているが、この不適切な盛

が林野庁補助事業で行った杉葉部の利活用を目指す研究を事業化させていた。具体的には98%が林内に放置されてしまっている杉葉部を水蒸気蒸留し、芳香成分を精油にしている。精油はキノコや木酢液などと同様に林内産物であるため所轄は特用林産課だが、現在は「日本産天然精油連絡協議会」も発足し、初年度から理事として樹木を中心とした国産精油の普及・利用促進に携わっている。先日は11月21日を「いい匂い、和精油の日」として特許庁に申請が受理され、周知イベントの準備にかかっている。

事業開始当初、「精油・エッセンスシャルオイル・アロマテラピー」と言っても林業界の男性達には認知度が低く、「葉っぱを集めてどうするのか?」と訝しがられたものだ。しかしふるさと納税の返礼品採用、ビジネスコンテストや緑の感謝祭の報道、秋田県商工会議所連合会の女性起業家大賞での受賞などもあり、林内に散らばっていた杉葉が「美しいもの・雑貨として付加価値を認められるもの」と認知されてきたことは、成長産業の可能性が理解されただろう。

全国各地にはその土地を代表する樹木があり、それぞれ50年・100年などの年月をかけて大切に育てられてきた。技術革新により新国立競技場を始めとした大型公共施設にも木材が利用されている一方で、一般消費者に対し「木材の未使用部分の

利活用」についてはさらなる啓蒙が必要と感じる。

最近ではSDGsの17のチャレンジのうち、スギ芳香成分が花粉症対策としても注目されていることから、3番の「すべての人に健康と福祉を」や、高齢化が進む業界で未使用部分の有効活用が費用還元につながることで8番の「生きがいも経済成長も」、伐期を迎えた木から新たな製品につなげ、環境問題としても適切な利用促進がされる点は12番の「作る責任使う責任」、15番「陸の豊かさを守ろう」などのチャレンジに相当する。

植林した本人は伐採に立ち会ったとはほぼほぼ出来ない。世代を超え、余すところなく木を利用することが求められていると強く感じている。





# 北のはずれの 青い森にて



青森森林管理署 森林整備官 宮腰 有紀

私の勤務する広瀬後潟森林事務所は、本州北端の半島の一つである青森県津軽半島の陸奥湾側にあります。半島の脊梁をなす津軽山地のうち、管内には「蓬田三山」と称される大倉岳・赤倉岳・袴腰岳があり、いずれも人気の登山コースとなっています。



蓬田三山（国有林）と稲穂

連なる山々を水源に平野には稲作地帯が広がり、そして穏やかな陸奥湾へと流れつく、山と海の結び付きを感じられる地域です。管内の蓬田村はトマト栽培にも力を入れていますが、そのトマトを加工して作られたトマトケチャップがとても美味しいです。新青森駅などの土産屋にも売っていただきましたので土産におすすめです！

昨年度から当事務所に異動し、しばらくは（急に森林事務所勤務とか…無理だわ）という思いでいつはいいで、次々とやってくる業務になんとか立ち向かっていく…そんな日々でした。

業務に慣れてくると同時に、危険と隣り合わせな林業を目の当たりにして、何より安全のために工夫しなければ、と思うようになりました。例えば、内業でGISや紙資料等を駆使して可能な限り情報を整理しておき、現場で冷静な判断ができるよう努めています。またドローンを活用して現地確認をしてみるなど、新たな技術も習得して、結果として現地に合った細やかな施業ができるようになるればいいなと取り組んでいます。



ドローン撮影し間伐前の林況を確認

当地域は幸いにもニホンシカやマツ枯れ等の病虫獣被害が深刻化しておらず、森林の中で気になることを観察したり調べたりと、業務の傍らで森林に興味深く接する時間を持つことができています。特に、青森県内では特徴的に自生している針葉樹種である「ヒバ」について、管内各地に様々な姿で生育しているヒバを見かけては、なぜこんな林況になったのだろうと思いを巡らせています。

縁もゆかりもなかった青森ですが、期せずして3年半、豊かな森の中で数々の学びを得ています。ここで培っている現場目線の経験は今後どのような業務にも活きると思いますので、まだまだ多くの経験を積んでいきたいと思っています。



雨上がりのヒバ林内  
落ち葉が多様です

# 我が署の名所



## 陸前高田市 三陸中部森林管理署管内

### 道の駅高田松原と 奇跡の一本松

当署管内の陸前高田市には、「道の駅高田松原」があります。東日本大震災の津波により甚大な被害を受け暫く休館していましたが、令和元年9月にリニューアルオープンしました。

周辺施設には、「高田松原津波復興記念公園」、「国営追悼・祈念施設」、「東日本大震災津波伝承館」、「震災遺構」等があります。その中でも「奇跡の一本松」は、約7万本の高田松原の中で、津波によりほとんどが流されましたが、唯一耐え残った復興のシンボルの存在です。平成24年5月に枯死が確認されましたが、陸前高田市では、モニユメントとして保存整備しています。

また、高田松原を以前のような林にするために、「高田

松原を守る会」主催による中学生、高校生を含むボランティアでの植樹活動も行われました。

これらの周辺施設は、いずれも、先人の英知に学び、東日本大震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会を一緒に実現することを目指すためのものです。

そして、令和5年春期に、東日本大震災津波被災地への復興支援に対する感謝や復旧・復興の姿を国内外へ発信するため、高田松原津波復興記念公園において、「緑をつなごう 輝くイーハトーブの森から」を大会テーマとして「第73回全国植樹祭いわて2023」の開催される予定です。

みなさんも、東日本大震災の記憶を風化させないためにも、一度訪れてみてはいかがでしょうか。



海側から臨む道の駅高田松原  
(提供：道の駅高田松原)



国営追悼・祈念施設  
(提供：道の駅高田松原)



震災遺構 (旧ユースホテルと奇跡の一本松)  
(提供：道の駅高田松原)



ボランティアによる植樹活動  
(提供：道の駅高田松原)



#### 道の駅高田松原 交通アクセス

三陸道 陸前高田ICを南下、国道340号を車で約7分  
又は、三陸道 陸前高田長部ICを北上、国道45号を車で6分

#### 三陸中部森林管理署

〒022-0003  
岩手県大船渡市盛町字津野沢7-5  
TEL (0192) 26-2161  
FAX (0192) 26-4279